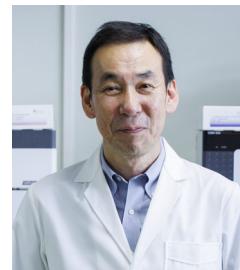


卷頭言

多様性の放射線化学が未来を作る

金沢大学 理工研究域 生命理工学系

高橋 憲司*



2023年より、日本放射線化学会の会長を拝命しました。会員の皆様と放射線化学の活動を一層活発に行うために、皆様のご協力をお願い致します。

最近読んだ本に「多様性の科学」(マシュー・サイド著, 2021年初版, 2022年第12刷, 10万部発行)というのがあります。「画一的で凋落する組織、複数の視点で問題を解決する組織」というサブタイトルが付けられています。画一的組織の例として米国CIAが挙げられています。なぜCIAか? それは、極めて機密性の高い世界中のテロリストに関する情報を把握しているCIAが、何故あの旅客機2機が世界貿易センタービルに激突するという、9.11の惨事を事前に防げなかつたのかという点にあります。その原因はCIA組織の「画一的集団性」にあるという事を見事なまでに描いています。今でも鮮烈に覚えていますが、私は9.11の日に、依頼講演のためにシカゴ・アルゴンヌ研究所からノートルダム大学への運転中で、ラジオからの映画のような説明を聞いても、何が起きているのか全く理解できませんでした。

このような例を出したのは、現在の日本放射線化学会が「画一的な集団」になっていないかという危惧です。討論会のプログラムを見る限りは画一的ではないです。しかし、放射線化学会の持つ「多様な科学」のコミュニティーの意見交換・議論は十分でしょうか? そして、視点を世界へ向けると Miller会議, Tihany会議、懐かしき Gordon会議において、日本の放射線化学の活動・存在を多様なメンバーが示してきたでしょうか。

一方で、2050年へ向けて、放射線化学という学術が貢献できることを具体的に示すチャンスが来ています、間違いないく。

それらは宇宙開発であるし、核融合、脱炭素・カーボニュートラル、先進医療、生成AI、新素材、再生可能エネルギー、生物多様性、フードロス、そして処理水問題などです。これらの全てに放射線化学が関与できます。そのためには、多様なステークホルダーを巻き込み、現場の声を聞き、放射線化学は何ができるかを説明する必要があります。

この原稿を書いているのは2023年10月6日で、放射線化学会総会が終った直後です。その時に、放射線化学会の今後の活動として2つの提案をしました。1つは放射線化学を広く宣伝するためのパンフレットの作成、もう1つはグローバルな放射線化学コンソーシアムを作ること。

放射線化学を知らない人に、「放射線化学とは何か」を極めて明確にわかりやすく説明するパンフレットを作りたいと考えています。さまざまな生産分野の現場の方々、消費者の方々、教育機関の方々、経産省・文科省の方々へ説明するインパクトのあるパンフレットを作りたいのです。放射線化学のさまざまな基礎・応用研究を「今の社会に受け入れてもらうこと。放射線化学は人々を幸せにしているのですね。」という活動が必要なのです。皆さんで放射線化学の未来ビジョンを作り、そのためには必要なインプットつまり研究活動を考えていくことです。大切なことはシーズパッシュではなくて、未来ビジョンからバックキャストして考えることです。

また、海外の放射線化学の研究者をつなげるコンソーシアムを作りたいと考えています。今やZoomで会議をするのは当たり前になりました。世界中の放射線化学の人々と簡単に画面越しにリアルで話することができます。世界中の放射線化学の人々と地道に会話を続けて、「日本放射線化学会」が「世界放射線化学会」へと発展することは必ずしも不可能でないと思います。できればこれを、皆さんと「共創」して成し遂げたいと考えていますので、皆さんとのコミュニケーションをお願いします。

The power of diverse radiation chemistry builds the future
Kenji TAKAHASHI* (Kanazawa University),
〒920-1192 金沢市角間町
TEL: 076-234-4828, FAX: 076-234-4829,
E-mail: ktkenji@staff.kanazawa-u.ac.jp